

### 高齢者が安心して電気を使うために ごみダイエット・絵画、標語コンクール

12月3日、仙南地域広域行政事務組合主催の平成26年度「ごみダイエット・絵画、標語コンクール」で最優秀賞を受賞した渡邊優花さん（白二小3年・絵画部門）鈴木夢結花さん（白一小4年・標語部門）が市役所を訪れ、同組合の理事長である風間市長から賞状が手渡されました。渡邊さんは「リサイクルは大切なので、これからも分別しようと思います」、鈴木さんは「私の標語を見てくれた人がリサイクルをしてくれたらうれしいです」と話してくれました。入賞作品は、1月15日（木）～21日（水）まで、市役所1階ロビーに展示されます。



▲表彰を受け、風間市長と記念撮影する鈴木さん（左）と渡邊さん（右）

### 器用さよりも妥協しない我慢強さ 我妻勉さんが「現代の名工」

11月10日、平成26年度の卓越した技能者（通称「現代の名工」）に室内装飾工の我妻勉さん（有限会社光淋堂）が選ばれ、厚生労働大臣表彰を受けました。我妻さんはこの道50年のベテラン職人で、これまでも技能グランプリで優勝するなど技術の高さを全国に示してきました。我妻さんは「小さいころから師匠である父の現場に出入りし、当たり前のようにこの道に入りました。器用さよりも妥協しない我慢強さで今まで続けてきました。今後は伝統の技を後進に伝えていきたい」と充実感のある笑顔で話してくれました。



▲丸包丁を使う伝統の技で和紙を裁断する我妻さん

### 良好な地域社会づくりに貢献 鈴木恒秋さんが総務大臣・厚生労働大臣表彰

11月28日、「地縁による団体功労者総務大臣表彰」と「共同募金運動奉仕功労者厚生大臣表彰」を受けた鈴木恒秋さんが市役所を訪れ、風間市長に受賞の喜びを話しました。鈴木さんは、平成2年から長町自治会長、平成17年からは白石市自治会連合会長も務め、地域コミュニティの維持や防災時における共助のあり方について尽力。東日本大震災の際には早期の住民生活復旧に貢献しました。また、長町自治会長に就任してから現在までの長きにわたり共同募金奉仕者として、常に社会福祉と地域住民の生活安定に力を注いできました。



▲表彰状を手にして喜びの笑顔の鈴木さん（左）

### 100歳おめでとうございます 小室郁子さんに松竹梅敬老祝金

12月2日、満100歳を迎えた小室郁子さんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老金と祝詞を贈り長寿を祝福しました。郁子さんは小原のご出身で、若くして夫を戦争で亡くされ、女手ひとつで家業の農業に従事しながら苦勞して1人の子どもを育てました。現在は孫が3人、ひ孫が3人います。ご家族は、郁子さんの長生きの秘訣を「好き嫌いなくなんでも食べることに、畑仕事などで体を動かしていたことではないでしょうか」と話してくれました。現在は施設に入所中。この日はご家族のほか、入所者や施設職員みんなで郁子さんの長寿をお祝いしました。



▲郁子さんの長寿を祝うご家族やご親族の方々

### 異文化を楽しみながら学ぶ 料理を通して世界を知る会

11月20日、白石市国際交流協会主催の「料理を通して世界を知る会」が中央公民館で行われました。今回の講師はケニア出身のナオミさんほかケニア支援を行っているNPO法人アマニ・ヤ・アフリカの皆さん。ケニアの文化や生活について学んだ後、ケニア料理「ウガリ（主食）」「カチュンバリ（サラダ）」「シチュー」などケニア独特の料理に参加者28人が挑戦しました。また、本市特産の温麺を使った「うーめん入りスープ」も調理し、参加者全員でおいしくいただきながら互いに交流を深めていました。



▲初めてのケニア料理に挑戦する参加者と講師のナオミさん（中央）

### 白石の味を全国に発送 第30回ふるさと小包樽柿・ころ柿出発式

12月9日、「第30回ふるさと小包樽柿・ころ柿出発式」が宮城県ころ柿出荷協同組合で開催されました。この日発送されたのは、仙南産の蜂屋柿を冬の寒風にさらし、1カ月間アルコールに漬け渋抜きされた樽柿を約3kg詰めたゆうパックの第1弾で、樽タイプ160樽、箱タイプ278箱。仙南地域の冬の味覚である樽柿・ころ柿を全国各地に向けて発送しました。半沢芳光同組合副理事長は「蜂屋柿は大河原町が生産の北限と言われています。ふるさとの味を全国にお届けできることがうれしい」と笑顔で話していました。



▲ふるさとの味、樽柿・ころ柿を全国に向けて発送しました

### 子どもたちの健やかな成長を応援 白石市建設職組合青年部が奉仕作業

10月26日、白石市建設職組合青年部（佐藤佳克青年部長）の皆さんが市内7保育園・2児童館の施設修繕などの奉仕作業を行いました。建設職組合の厚意で30年以上続くこの奉仕作業。今年も材料代や工賃として1万円ずつを各施設に寄付する形で実施されました。今年の作業には同組合青年部の会員21人が参加。子どもたちの安全のため、ロッカーの転倒防止の取り付けや、仕切り戸の設置などを行いました。また、限られたスペースにぴったり収まる棚の設置など、さすがの職人技で、子どもたちの成長を応援してくれました。



▲北保育園でトイレの扉を修理する青年部の皆さん

### 段ボールベッドで避難所生活を快適に 「災害時等における物資調達に関する協定」締結式

12月8日、東北カートン株式会社と本市は「災害時等における物資調達に関する協定」を締結しました。この協定は、白石市地域防災計画に定める避難所の生活環境整備の一環として、本協定に基づき災害時に「段ボールベッド」の供給を要請するもの。白石市防災センターで行われた締結式には、同社の岩本英昭代表取締役社長と風間市長が出席し、協定書に署名をしました。段ボールベッドは、簡単に組み立てられ、高齢者が立ち上がりやすい高さや防寒、ほこりを吸い込みにくいなどのメリットがあり、病気予防対策としても医学的に提唱されています。



▲協定を結び握手する岩本代表取締役社長（左）と風間市長（右）